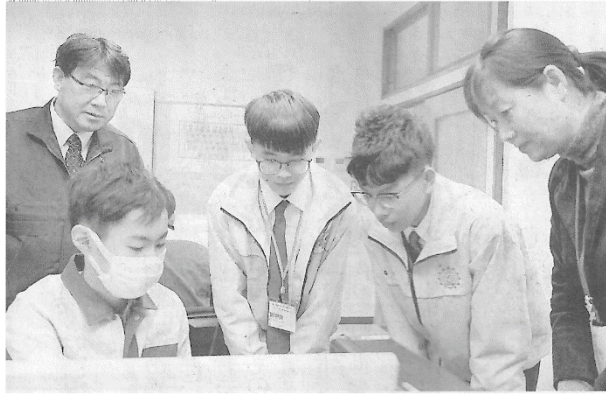


台湾の高校生の訪問があり、交流会を実施しました

長野日報

2019年（令和元年）

12月18日 水曜日



台湾西部の高校生26人と教員2人でつくる訪日団が17日、駒ヶ根市の駒ヶ根工業高校を視察した。通訳を介して日本の工業技術について学んだり、同校生徒との親睦を深めたりした。（松井崇）

駒ヶ根工業高校の生徒（左前）が学習しているプログラミングの内容を、通訳を介して聞く訪日団の高校生（中央の2人）

セレニーで宮澤伸明校長は「ようこそ日本へ。ようこそ駒ヶ根工業高校へ」と歓迎。団員の多くが工業を専攻としていることから、「工業を学ぶ者に国境はありません。積極的に交流しましょう」と呼び掛けた。訪日団代表の謝文斌さんは「おもてなしに厚くお礼を申し上げます。この機会をきっかけに今後より深い交流をしたいと思います」と心寄せた。訪日団は三つのグループに分かれて校内を巡回。機械科や電気科、情報技術科の授業

台湾の高校生ら 日本の技術学ぶ

駒工視察 太鼓や舞踊で交流

を見学した。その後あった交流会では、同校生徒による太鼓演奏や訪日団による舞踊など双方のパフォーマンスの披露で盛り上がった。訪日団の一員、劉明倫さん（16）は「台湾にはない授業風景を見られてとても勉強になりました。そして、日本の冬はとても寒いですね」と、外国での体験を興奮した様子で語っていた。

